

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各りびング・玄関に理念を、掲載している。毎朝申し送り時に「咲こまい」の理念を職員で合唱し共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも参加しており、町内会議の場所を提供している。行事の参加も呼び掛けて交流の場を増やしている。敬老会など参加し、学区のお食事会なども利用者様数人と参加もした事がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を通して、ホームの活動を知って頂き、行事など地域の方々の訪問を増やす事に努めている。また、散歩時には道路ののゴミ集めなどもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議を2ヶ月に一度開催しており、積極的に意見を頂いたり参加して頂く事で、サービスの向上に努めている。地域運営推進会議や行事に参加して頂く事で、利用者様やグループホームを理解して頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは地域運営推進会議の場以外でも、意見や助言を頂き、サービスの向上に努めている。また、認知症についての勉強会をやって頂けるよう、お話ししている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議の時や申し送りの時に身体拘束についての勉強会を行っている。身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。また、玄関・各階のエレベーターの施錠については、防犯上・立地的な問題での常識範囲内で行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議の時や申し送りの時に虐待防止についての勉強会を行っている。職員全員が虐待に対して正しい知識を持ち、言葉でも虐待になる事を理解してもらい、利用者の尊厳が失われないよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・リーダーが主となり権利擁護に関する内容を学んで伝えていっている。また、いつでも助言や説明ができる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書など読み上げて、確認しながら説明を行っている。不安点や疑問点がある場合はその都度説明を行い、理解や納得して頂いた上で、同意をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様から苦情や要望、相談などの意見がいつでもできるように、意見箱の設置や意見しやすい環境作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や定期的に職員と面談などの場を設け、コミュニケーションを図っている。それを踏まえ、職員からでた意見をできるだけ運営に反映出来る様努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格手当や責任能力に応じた給与体系をとっている。また、様々な講習などの情報提供を促し、各自が向上心を持てるような環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設内研修に積極的に取り入れ各講師を招いての勉強会を開催している。また、施設外研修も正社員には勤務としてパートには受講料と交通費は支給し行きやすい環境づくりをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中村区の認知症専門部会や近隣病院主催の研修に適時参加して、他のグループホームや施設の方と交流をもち、互いに情報交換することにより、サービスの向上・改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前にアセスメントを行い、職員に利用者様の情報を把握して頂き、職員全体で統一した関わりを行う事で、安心して過ごせる雰囲気づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族様からもアセスメントを行い、意見や不安などを聞きだし、提案と一緒に解決していくことで安心して頂き、ホームへの信頼を得る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前面談時に利用者様本人、ご家族様から希望や要望などを伺い、どう過ごしていきたいか、何が必要かを話し合いながらサービス内容を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者様」ではあるが、家族のような何でも話せる、信頼関係の強い関係を築いていきたい、ホームは家という考えを持ち、関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などに参加して頂き、本人との関わりを持ってもらい、またちょっとした変化も伝えていき、身近な存在である、離れていても安心して過ごしてもらえよう関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や家族様が訪問時には居室やラウンジなどで個別の空間作りをしリラックスしてお話できる環境作りをしている。また、旦那様がおやつ時に奥様に面会をされた場合は一緒におやつを召し上がって頂くなど配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や利用者同士の相性などを見極めながら、時には職員が間に入るなどの配慮を行っている。また、個人の時間も尊重し、一人の時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後もこれまで同様、相談や情報提供などの支援がいつでもできるような関係で取り組みが出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の事前アセスメントを基に本人の思いに沿った暮らしの支援を行っていくとともに、入居後も定期的に本人や家族様の希望や意向をケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・ご家族様にアセスメントを行い、これまでの生活歴や生活環境を把握している。サービス利用があった場合は、その時の様子や内容を把握し、馴染みの暮らしできる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、一人一人の介護記録に利用者様の様子・体調の変化などを記録に残し、状況の把握に努めている。また、毎朝と夕方に申し送りを行って、職員間で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に本人の様子や体調の変化などに注意し、どんなことでもご家族様に情報提供をし、思いを聞き取っている。また、定期的にモニタリングを行い、カンファレンスを開催して、ケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者様の様子や言葉などを介護記録に記入している。また、職員の引き継ぎの時は、申し送りを行い、利用者様の状況や変化などを伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様のニーズに対しては、ホームで可能なサービスをご家族様にもご協力を頂き、状況に応じて行っている。また、外部のサービスも取り入れており、柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの訪問などを通して、興味や関わりを持ってもらい、また地域の催し物にも参加し、毎日の暮らしに楽しみを持ってもらう。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居後もかかりつけ医との関係を維持していき、必要に応じて情報を提供してもらったり、必要があれば診て頂く。本人とご家族様の意向を尊重し、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週2回訪問看護師がみえ、日ごろの健康管理や身体の変化が生じていないか、また相談や必要があれば適切な処置を行っている。24時間オンコール可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、速やかに看護師に情報提供書を作成してもらい、病院へ情報伝達を行っている。また、病院関係者との情報交換を頻回に行い、早期退院ができる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームでの「重度化における指針」を説明して同意を得ている。また、終末期におけるご家族様の意向も把握する努力をしている。ホーム内で、終末期の援助などの話し合いの場を設けて意見を共有している。看取りの方2名あり。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時や事故発生時の対応や予防策の話し合いを行っている。急変時や事故発生時に職員がパニックにならないよう応急手当などの研修にも行き、実践力を身に付ける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っている。地域にも防災訓練の参加を呼びかけ、協力を得られるような関係づくりに努めている。近隣の店舗に非常時のお願いにも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様個人の人格を尊重し、一人一人に合った声掛けや接し方を行い、本人の人格を尊重して、ほこりやプライバシーを損ねない対応をしている。また、記録などには個人のプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを傾聴して本人の思いや希望が言いやすい関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、排せつ、入浴などの最低限の決まりはあるが本人の意思を尊重した暮らしを送ってもらっている。喫茶店でのお茶会など参加希望者と出かける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装で、本人が自己決定した服を着て頂き、室内、外出時と場面に合わせてふさわしい服装を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、利用者様と職員は同じテーブルを囲み食事を摂っている。利用者様にはお皿拭きなどを担当の仕事として行ってもらい、職員と一緒に片づけを行っている。嚥下状態を細かくチェックし提供し安定した食事摂取を心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立を提供している。食事量・水分量は毎日職員が摂取量を把握している。個々に合わせて摂取時間や形態も工夫し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・状況に応じて、舌磨き等の口腔ケアを行っている。また、義歯を使用している利用者様は毎晩洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に合ったトイレ誘導に加え、食事前後などにも行うことにより、少しでも排泄感覚を取り戻してもらうよう支援を行っている。また、利用者様のサインを見落とさないよう少しの変化にも気づけるように努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便状況を把握している。運動や水分、食事摂取量などに配慮している。便秘が続いた時は、主治医処方の下剤を使用する事もあるが、極力自然排便が出来る様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、時間やタイミングなど体調を考慮し取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて、落ち着けるような声掛けなどを行っている。安眠の為に、室内の照明や室温調節を行って、安眠できる環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前には職員が名前・日付・服薬時を確認し、服薬後は口腔内の確認をしている。また、薬の変更があった場合は、理由などを申し送り、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、リビング内の掃除・食器拭きなどを一人一人に合った能力や役割分担を行う事で、性格感を出している。また、責任感を持ってもらう事で、やる気の向上を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、ご近所の方と挨拶を交わすなど行っている。公園のベンチに座り、他利用者様たちと談笑されたり、外の環境にも触れて頂いている。また、近くの喫茶店や買い物にも出かけ、気分転換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方がみえる利用者様に関してはご家族で管理して頂いているが、ホームで管理している利用者様もみえる。一緒に買い物へ行くときは、本人に渡して、ほしい物が購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎがある時は行い、電話をかけたいと希望がある場合は、ホームの電話を貸している。手紙の投函を希望される場合は投函も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に落ち着いて過ごして頂けるよう、黄色の照明をしようしている。また、季節にあった飾り付けをして季節感を出し、ゆったりとすごしていただけるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各リビングには視覚になる場所があり、ソファとテーブルがあり、プライベートな空間を用意している。居室とはまた違う空間があり、ゆったりと過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今まで使っていた家具や寝具、お茶碗など自宅などにあるものを持ってきていただき、自宅と思って安心して頂けるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の「できること」と「できないこと」を職員が把握し、「できること」を役割としてやっていただく。また、居室やトイレが分かりやすいように工夫し、自立した生活が送れるように支援している。		